

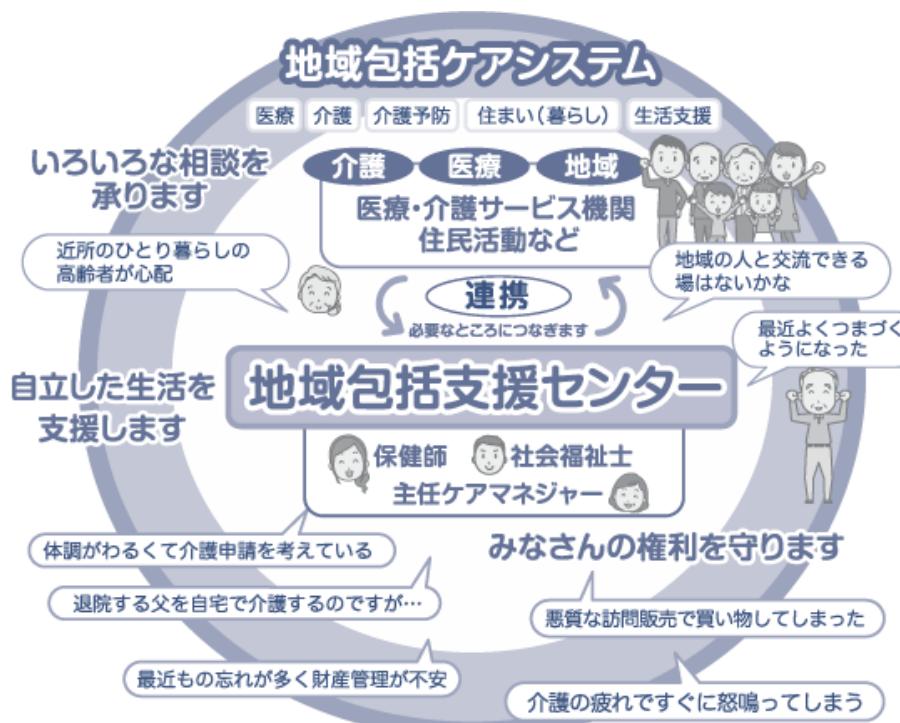
令和 6 年度  
阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター  
事業報告書

令和 7 年 3 月  
社会福祉法人 阪南市社会福祉協議会  
阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター

## 目 次

### 阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター事業

1. 総合相談支援業務	3
2. 権利擁護業務	4
3. 包括的・継続的ケアマネジメント	5
4. 地域ケア会議推進事業	6
5. 介護予防・生活支援サービスの体制整備事業への参画・協力	7
6. 在宅医療・介護連携の推進事業	8
7. 介護予防事業普及啓発活動への協力	9
8. 任意事業（介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業）	10
9. 認知症施策の推進	11
10. 介護予防サービス計画の作成（指定介護予防支援事業）	13
11. 認知症啓発業務	14
12. コミュニティソーシャルワーカー（C S W）配置促進事業	15
13. その他の会議・研修等	17



## 1. 総合相談支援業務（市受託：包括的支援事業）

### （1）事業概要

地域の身近な総合相談窓口として、社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員、認知症地域支援推進員等の専門性を活かし、高齢者を中心とした住民の相談支援および訪問相談業務を行ないます。相談業務の中から、地域課題を抽出して他機関と連携し、複合的な課題を抱えた世帯に対しても、伴走型支援を意識した関わりをしています。

圏域内には住民によるまちなかサロン・カフェや小地域ネットワーク活動、医療や介護の専門職や民間企業が事業を実施されています。できるだけ身近な場所で高齢者の困りごとを把握できるよう、これらの機関等と連携し、誰かが気づける、また誰かに相談できる体制を作り、地域包括ケアシステムの深化を進めます。

### （2）実施内容・実績

○相談件数…5,071件（実人数733人）

### （3）成果・評価

○総合相談件数、実人数ともに昨年度よりも増加しています。  
○医療と介護の支援が両方必要、もしくは支える家族が60歳を超えてくるタイミングとなる80歳～84歳、次いで85歳～89歳の方の相談を数多く受け止めています。  
○本人や家族以外からの相談経路はケアマネジャー、医療機関、関係機関、民生委員・福祉委員からが多数を占めています。周囲の方々が困りごとに気づき対応に困ったときには、一緒に解決へ向けて支援することで地域力の強化にもつなげています。  
○介護サービス利用についての問い合わせ、医療、認知症、家族関係に関する内容の相談が上位を占めています。家族関係に関することについては、2年前と比べて1.6倍に相談が増えています。

### （4）課題・今後の方針

○同居世帯であっても、お互いが無関心または共依存状態にある、精神疾患や認知症の症状の増悪で虐待対応につながる、親の介護が必要になった時点でひきこもりの子どもがいることがわかるなど、世帯全体に支援が必要になることがあります。さらに、家族関係の希薄化・複雑化が深刻で、対応に困難が伴うケースが増えています。  
○壮年期の健康課題を抱えている、セルフネグレクト傾向にある、住民票が他県にあるなど、制度の狭間で関係機関と連携することに時間がかかることも多くありました。  
○多機関や地域で支えられる体制を作り、早期発見、早期介入ができるよう支援する体制の強化が求められています。

## 2. 権利擁護事業（市受託：包括的支援事業）

### （1）事業概要

高齢者の人権を護るために、相談や通報に対し市役所や関係機関と連携し対応します。また、高齢者虐待、消費者被害の早期発見や予防を図るため、対処法や制度についての啓発活動を行ないます。

### （2）実施内容・実績

#### 【相談実績】（延べ件数）

相談内容内訳	相談件数
権利擁護	44
成年後見等	128
虐待関係	77
消費者被害等	3
財産・経済問題	119
その他	7
合計	378

#### 【会議・研修】

プログラム	回数	実績
研修	1回	阪南市在宅支援専門職向け高齢者虐待対応研修
会議	12回	東西地域包括支援センター社会福祉士会議
	3回	阪南市高齢者虐待担当者会議
意見交換会	6回	<ul style="list-style-type: none"><li>・司法書士</li><li>・日常生活自立支援事業担当者、まつのき園</li><li>・金融機関</li><li>・消費者被害に関する機関</li></ul>
その他	対面3回 電話メール5回	弁護士による法律相談

### （3）成果・評価

- 成年後見制度は昨年に比べて1.6倍の相談がありました。市長申し立てが1件、本人申し立てが2件、親族申し立てが1件ありました。また、成年後見制度などの権利擁護事業に携わる担当者と意見交換を行い、多様化する相談に総合的に対応できる中核機関の設置が必要であるという認識に至りました。
- 虐待関係では昨年と比べて2.8倍の相談がありました。令和6年度から各事業所に虐待防止委員会の設置が義務づけられ、地域包括支援センター内においても研修を行いました。ケアマネジャーからの通報が増えており、各事業所や専門職の虐待防止への意識が高まっています。
- 行政と東西包括で高齢者虐待担当者会議を行い、より迅速に対応できるように虐待帳票の簡潔化を図りました。

### （4）課題・今後の方針

- 障がい分野の機関のほか、司法書士、警察や金融機関など他分野の方とも意見交換を図ることができます。行政や地域包括支援センターだけではなく、様々な関係機関と連携し、さらに地域住民とも協力し合いながら高齢者を支えていく体制を整えていきます。
- 虐待対応では相談は増えたものの、本人や養護者との信頼関係が崩れてしまうことを懸念して通告を躊躇する専門職もいます。虐待対応の周知啓発を行い、支援者がより知識を深め虐待の早期発見や防止に努められるよう、研修などの学ぶ機会を設ける必要があります。
- 独居や認知症などで判断能力に課題のある高齢者の支援として、本人にとって最善の利益を導き出せるように努めます。また、本人に必要な情報の提供や本人の意思や考えを引き出す、意思決定支援の必要性について啓発や理解の促進に努めます。
- 消費者被害等は昨年度と相談件数はほとんど変わらず、3件でした。被害に気付づかないことや、被害にあったことを誰にも相談できていないなど潜在的な相談もあるのではないかと考えます。引き続き行政や警察とも連携しながら、気軽に相談できる窓口として消費者被害等の防止に努めます。

### 3. 包括的・継続的ケアマネジメント事業（市受託：包括的支援事業）

#### （1）事業概要

地域のケアマネジャーが包括的、継続的なケアマネジメントを実施できるよう、地域のネットワークを構築するとともにケアマネジャーへの支援を行ないます。

#### （2）実施内容・実績

プログラム	実施回数	実績
ケアマネジャーへの支援・助言・相談	延べ2961件	●利用者支援相談488件 ●実務相談831件 ●給付算定関係682件 ●個別地域ケア会議3件 ●個別事例検討会4件 ●その他953件
ケアマネジャー部会	6回	延べ121名出席
ケアマネジャー役員会	6回	延べ58名出席（役員9名）
Mina de jirei α	12回（西包括から2事例提供）	自立支援型地域ケア会議。利用者の目標達成を目指し、多職種から助言。
資質向上研修	3回（うち1回は法定外研修、もう1回は医療職、介護職を対象とした研修）	資質向上を目的とした研修企画、開催。 延べ97名出席
東西地域包括支援センター主任ケアマネ会議	12回	制度改正のための取り決め 課題抽出、研修企画、部会後方支援

#### （3）成果・評価

- 介護報酬改正に伴う算定方法の見解について保険者と協議を重ね、その結果について一定の整理ができたことで、早期にケアマネジャー間での共通理解に繋がりました。
- パーキンソン病患者・家族会の定例会において、ケアマネジャー部会の役員が、介護保険制度の勉強会の講師を努める等、通常のケアマネジメント業務以外にも活動の幅を広げることに繋がりました。
- 「虐待」「成年後見制度」をテーマに資質向上研修を開催しました。制度理解が深まるよう、今後も継続して開催していきます。

#### （4）課題・今後の方針

- ケアマネジャーの高齢化、退職、新たななり手がいないことから慢性的な人材不足の状態がここ数年続いており、今後もこの流れは止まらないと推測されます。また、住民の高齢化に伴い介護サービス利用者数が開設当初（2016年）よりも約900件増加し、要支援者のケアプランの委託先が見つからず、介護難民化、もしくは地域包括支援センターの負担が増大しています。今後、要支援者に対するサービスの取り扱いや、いつまでも健康でいるために自立支援についての市民啓発が必要と考えます。
- 介護サービス事業所が利用者宅を訪問する際の駐車スペースがなく、路上駐車、コインパーキングへの駐車、事業所で駐車スペースの借り上げ等の対応をしていますが、警察への通報や事業所が料金を負担するなど事業を運営する面で支障が出ています。
- 家族や地域との連携、地域資源の活用を苦手とするケアマネジャーが多く、利用者を総合的に把握した支援に繋がりにくい傾向があります。研修や勉強会を開催し、ケアマネジャーの資質向上に努めています。

## 4. 地域ケア会議推進事業（市受託：包括的支援事業）

### （1）事業概要

圏域内での医療、介護、福祉等の専門職や機関、民間企業等と校区（地区）福祉委員会や民生委員、ボランティア等の住民活動者が連携協働し、高齢者の地域での生活を支えるため、個別、地区、市域等で地域ケア会議を開催します。＊阪南市では地域ケア会議を「支えあい会議」という名称で進めています。

### （2）実施内容・実績

プログラム	実施回数	実績
個別支えあい会議	5回	認知症と近隣トラブル、本人の意思決定支援、認知症による行動への理解や地域住民による見守り体制、セルフネグレクト傾向の方の支援者間の連携強化、ICTの活用など
エリア会議（圏域内5校区）	11回	各校区の状況や課題の共有、まちの保健室が地域へ出向くための検討
三職種会議（主任ケアマネジャー、医療職、社会福祉士）	38回	東西地域包括支援センターの職種ごとにあつまり、課題の共有、資源開発等 介護保険課職員の参画を促し、実務や地域課題の共有から解決へ向けた取り組みの展開を検討
地域支えあい会議（圏域5校区内の福祉委員会や民生委員児童委員が集まる会議体に参画等）	56回	認知症、フレイル、災害時対応、孤立死、人生会議など、様々な地域課題を住民と共有

### （3）成果・評価

- 個別相談において多機関協働での支援体制を築く際、認知症がテーマとなることが多くなっています。認知症は地域住民も含めて医療や、介護の専門職、その他コンビニやスーパーなど、生活に直結するような民間企業とも協働して支えあう体制が必要で、少しずつその輪は広がりつつある感じています。
- 福祉委員会の会合を、中心に地域へ出向いた際に個別相談等で把握した課題を共有できました。
- 東西包括の職種間連携の強化も進んでおり、また取り組みの中で感じた課題に対して、多機関を巻き込みながらの展開が進んでいます。

### （4）課題・今後の方針

- 制度内、行政施策、地域住民と一緒に検討など、それぞれの強みを活かしながらできることを考え、地域課題の解決を継続します。

## 5. 介護予防・生活支援サービスの体制整備事業への参画・協力（市受託：包括的支援事業）

### （1）事業概要

本会に配置された第1層、第2層生活支援コーディネーターと連携し、総合事業や生活支援サービスのあり方、住民主体による支援について検討するため、「阪南市生活支援・介護予防サービス協議会」の運営に参画・協力します。

### （2）実施内容・実績

プログラム	回数	実績
第1層阪南市生活支援・介護予防サービス協議会への参画	6回	地域における支えあい活動の共有 地域の実情、地域課題について発信
第2層阪南市生活支援・介護予防サービス協議会への協力	12回	舞シニアサポート、箱の浦まちづくり協議会など総合事業を実施する地域団体への参画を通じ、個別事例への協働支援を意識して取り組みを行ないました。

### （3）成果・評価

- 阪南市地域づくり担い手研修において目的が達成できるように、研修の対象や周知方法・内容などの話し合いをしました。
- 住民主体型サービスを担う地域団体の会合に参画し、制度の考え方や方向性などを確認しあいました。
- 総合事業のある地域では、住民の困りごとの解決に対し選択できる社会資源として定着しており、困りごとの解決方法を住民主体で考え、活動が広がってきてています。

### （4）課題・今後の方針

- 総合事業がある地域とない地域での地域差が広がってきてています。
- 地域の居場所へ参加する際の移動困難者に対する改善の声が、引き続きの課題となっています。
- 地域で役割があることが介護予防につながっていることを意識し、支えあい活動を通して、支える側支えられる側の双方が健康的に暮らしていくように地域づくりを進めていきます。

## 6. 在宅医療・介護連携の推進事業（市受託：包括的支援事業）

### （1）事業概要

医療職及び介護職の「顔のみえる関係」を築くため「医療と介護の多職種連携会議」へ参画し、医療と介護の円滑な支援体制を構築します。

### （2）実施内容・実績

【阪南市医療と介護の多職種連携会議（はなていネット）、泉佐野泉南医師会との協働事業】

プログラム	実施回数	実績
はなていネット運営会議	2回	各部会活動の共有、フレイル対策やACPにおける地域課題へ向けた取組の検討
はなていネット連携会議	1回	医療と介護の連携のための研修 「人生会議について」について
医師会・介護保険課戦略会議	1・2回	泉佐野泉南医師会、市、東西包括による医介連携推進会議
施設部会	4回	事例検討、人材不足の取り組み、施設看取りについて等
病院部会	2回	各病院間連携、退院時の福祉用具選定について等
訪問看護部会	4回	法改正について、在宅支援看取り、人生会議について
通所部会	2回	市内デイサービス、デイケアの事業所一覧の更新、自立支援の考え方について等
訪問介護部会	役員会5回 3回	人材不足について、ヘルパー業務についての課題 利用者向けチラシの作成等
3市3町多職種連携会議	1回	3市3町で取り組むべき課題の共有、フレイルについて
市内診療所、クリニック訪問	9回	泉佐野泉南医師会、阪南市介護保険課協働事業、主に歯科医院、施設へ訪問し事業所の概要や連携の課題などを情報収集する

### （3）成果・評価

- 各部会の事務局的に関わる中で、実務部分の検討及び市域全体の課題について共有できるよう取り組みました。  
その取り組みの中で出てきた課題について他の部会と交流する機会を設け、より連携がスムーズになりました。
- ACPやフレイルなど、地域の居場所へ専門職が出向いていけるように調整しました。地域課題としてあがっている事項を各種専門職間でも検討できるよう働きかけました。
- 医師会・市・両包括と定期的に戦略会議を行い、各部会の運営内容及び課題の共有や運営会議に向けての準備を重ねて行いました。
- 3市3町で取り組んでいる、消防署・保健所・医師会が主になって進めている「医療・ケアに関する情報共有シート」（最期の迎える時の意向確認）の高齢者施設での活用について、施設訪問の際に実情を確認し施設側のヒアリングを行いました。
- 福祉用具事業所や管理栄養士についても、話し合いを重ねており、必要性に応じて部会となるように介入していきます。

### （4）課題・今後の方針

- 各部会が抱えている課題について、他の部会と話し合う機会を設けるなどを通して、はなていネットとしてより連携を深め、地域包括ケアシステムを進めます。
- 高齢者施設を順次訪問するにあたり、「医療・ケアに関する情報共有シート」の運用について確認し課題を抽出すると共に、ACPの取り組みの実情などを把握していきます。

## 7. 介護予防事業普及啓発活動への協力（市受託：包括的支援事業）

### （1）事業概要

高齢者ができるだけ自立し住み慣れた地域で生活できるように、介護予防について普及啓発していきます。コロナ禍をきっかけとした自粛生活の影響により、フレイル状態に陥る方となるべく増やさないよう、コロナフレイルの周知を徹底しコロナフレイル0運動等の介護予防の啓発を継続します。

高齢者が歩いて通える身近なところに介護予防教室を開催できるよう、いきいき百歳体操の普及啓発に努めます。

### （2）実施内容・実績

プログラム	実施回数	実績
いきいき百歳体操	11回	体力測定及び基本チェックリスト・アンケートの実施 認知症・転倒予防についての啓発
出前講座	4回	各制度などの周知・啓発のための講話
医療職会議	12回	医療との連携、介護予防の内容の共有と、今後の取り組みについての企画など
コロナフレイルゼロ運動	12回	コロナフレイルを広く周知し、フレイル予防に努める 介護予防、ACPなどの普及啓発
あざみ会 (パーキンソン病患者・家族会)	20回	パーキンソン病患者・家族の交流会 11回 役員会9回 事務局としての後方支援

### （3）成果・評価

- いきいき百歳体操は、年1回を目安に定期的に体力測定を継続すると共に、基本チェックリスト及びアンケート結果より導いた健康課題について健康教育を行いました。全市における体力測定を継続し、日頃の健康づくりに関して無関心な方々や若年層にもPRできる機会になりました。
- コロナフレイルゼロ運動を含む出前講座は、フレイルなどの各テーマに基づいた講座を、主として地域包括支援センターが行ないました。昨年度に続きオーラルフレイルにも着目し、公民館祭りなどで啓発活動をおこないました。
- 人生会議に関する市民公開講座を2回実施し、多くの反響があり市民の関心の深さを感じました。
- あざみ会では、予定通り定期開催ができました。総合相談や個別支援の中で会を案内し、引き続き新規会員の確保に努めました。会員からのアンケートや感想及び交流会などから、会員自身が望む内容を企画・実施できるよう後方支援をしました。

### （4）課題・今後の方針

- 身近な場所で介護予防に取り組める環境づくりとして、はんなん健康応援プランに基づき、いきいき百歳体操の普及啓発を中心に、住民主体の持続可能な取り組みを各機関と連携を図りていきます。地域のつながりの大切さの普及啓発に努めると共に、誰もが自然に健康増進のための情報を入手でき、「自然に健康になれるまちづくり」を目指せるよう、今後の取り組みについて検討を重ねます。
- フレイルゼロ運動を含めた出前講座については、今後地域包括ケアシステムの深化を図るため、はなていネットの各部会と連携し、身近な専門職が地域へ出向ける仕組みづくりを推進していきます。
- あざみ会では、当事者と家族が自身の病気や介護の悩みを表現でき、不安の解消につながるような場づくりを提案していきます。会員自身が会への参加を楽しめる企画を、役員等と相談しながら進めていきます。また新規会員の入会につなげるため、幅広いPR活動に力を入れます。徐々に会員が増える一方、疾患の進行や症状で会場へ来られない会員もいます。会場に来られなくても情報交換ができる方法の検討が必要です。

## 8. 任意事業：介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業（市受託：包括的支援事業）

### （1）事業概要

介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業に協力し、高齢者やその家族の経済的、精神的な負担軽減や介護サービス事業所のサービス力の質の向上をめざします。

### （2）実施内容・実績

【介護用品支給事業】：要介護3～5の高齢者に対し、申請代行等を行ないます。

○計5件

【住宅改修支援事業】：住宅改修に関する助言や住宅改修理由書の作成に協力します。

○計10件

### （3）成果・評価

【介護用品支給事業】

○件数は2件から、5件に増えています。

【住宅改修支援事業】

○引き続き申請支援をおこなっていきます。

### （4）課題・今後の方針

【介護用品支給事業】

○市と協力し、ケアマネジャー及び地域住民への周知を行ないます。

【住宅改修支援事業】

○住宅改修を行なう理由を聞き取り、訪問の中で直接確認し、必要性に応じた支援を行ないます。

## 9. 認知症施策の推進（市受託：包括的支援事業）

### （1）事業概要

認知症地域支援推進を配置し、認知症当事者や家族などが尊厳を保ちながら、その人らしく穏やかに生活を送ることができるよう、認知症施策や事業の企画、調整などコーディネートし、認知症の人が地域で暮らし続けるために、地域の支援者や支援機関とのつながりづくりを行っていきます。

### （2）実施内容・実績

	プログラム	回数	実績
普及啓発・本人発信支援	認知症サポーター養成講座	7回	認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成する講座
	認知症サポーターステップアップ研修	1回	「認知症サポーター」が、認知症関連事業にボランティアとして活動できるよう、より深く理解を促す研修
	地域別キャラバン・メイト連絡会	12回	各圏域に分かれてキャラバンメイト活動について話し合い
	キャラバン・メイトリーダー会議	2回	各圏域のキャラバンメイトのリーダーが今後の方向性について検討
	キャラバン・メイト総会	1回	阪南市全域のキャラバン・メイトを対象に各圏域の活動報告と課題の共有
	キャラバン・メイトスキルアップ研修	1回	キャラバン・メイトの資質向上のために開催
	認知症広報誌の作成（ケアパス）	1回	令和7年度以降に使用する修正版ケアパスの作成
	キッズ認サポ（小学生対象認知症サポート養成講座）、高齢者疑似体験	2回	桃の木台小学校（6年生 63人）：キッズ認サポ+高齢者疑似体験 舞小学校（4年生 25人）：高齢者疑似体験
当事者、活動者支援	普及啓発イベントの企画	2回	9月アルツハイマー月間、ボランティアフェスティバルでの認知症啓発物の展示
	卓球クラブ中田会の活動支援	12回	認知症・障がいの有無、年齢に関係なく誰でも参加できる活動の後方支援
	おにぎり会の米作り活動支援	4回	ひとりの高齢者の生きがいである“田植え”を地域で支えたことがきっかけとなり、高齢者、子ども、地域の福祉施設、事業所の多機関が協働し、田植え、稲刈り、おにぎりカフェ、餅つき大会の開催
	ほうかつ GARDEN	通年実施	認知症当事者やその家族、地域住民による花壇づくり
	認知症当事者による本人ミーティングに向けての活動の後方支援	12回	認知症当事者が自身の悩みや不安を話せる機会を持てるよう、居場所づくりや開催場所の後方支援
	認知症カフェの活動支援（マスター ズCafe、なごみカフェ）	51回	認知症当事者やボランティアが協働して行うカフェの後方支援
	釣りプロジェクトの実施	2回	西鳥取漁港で認知症高齢者や住民、学生と釣りを通した交流支援
認知症初期集中支援チーム	認知症講演会	1回	認知症の正しい理解・啓発を目的として開催。 テーマ「口腔機能と認知症」講師：言語聴覚士・歯科衛生士
	認知症初期集中支援チーム員会議	6回	認知症の初期対応を集中的にサポートするチーム チーム内での情報共有、今後の支援対策の検討を包括内にて開催
	認知症初期集中チーム員支援会議	2回	認知症サポート医とともに事例検討及び地域課題について協議
構築・医療・介護のネットワークの	認知症初期集中支援チーム検討会	1回	認知症に関わる機関で認知症に関する地域課題を抽出・検討
	認知症ネットワーク部会	6回	東西包括認知症地域支援推進員との連携会議
	3市3町認知症対応ネットワーク会議	6回	泉佐野泉南医師会及び3市3町の推進員との交流・情報共有
	大阪府内認知症連携関係者連絡会	2回	大阪府認知症地域支援推進員フォローアップ研修への参加・情報共有
	認知症地域支援推進員連携会議	12回	介護保険課・東西包括認知症地域支援推進員にて活動報告、情報共有

### 認知症地域支援推進員活動状況（個別支援）

相談内容内訳	相談件数
利用者からの相談	214
家族からの相談	117
関係機関等からの相談	61
関係機関との連携体制構築等	59
認知症初期集中支援チームとの連携	8
その他	459

### 認知症地域支援推進員活動状況（団体支援）

	延件数	参加人数等
西圏域	193	4,450

### （3）成果・評価

- 認知症理解の普及啓発を目的に作成した認知症ケアパス及び認知症あんしんガイドを活用し、認知症の普及啓発に努めました。
- 福祉教育の一環として小学校にてキッズ認サポや校区福祉委員と協力し、高齢者疑似体験を行いました。
- 認知症カフェの特色を把握し、それぞれの活動に合わせた後方支援を行ないました。  
認知症カフェの自立を目指し、当事者やボランティアのみでも活動出来るような体制作りを行いました。
- 認知症当事者の声を聞き、その声をもとにした活動を進めるため、令和6年度より本人ミーティングを月に一回開催しています。認知症の当事者が不安を吐露できる場になっており、自ら話ができる居場所の大切さを感じています。試行錯誤を繰り返しながらも運営ボランティアの提案を重視し、主体的に活動できるよう進めています。

### （3）課題・今後の方針

- 毎年、各圏域のキャラバン・メイトが中心となって認知症サポーター養成講座を開催しています。「認知症について知りたい」という思いで受けられる方も多く、受講後の活動に繋がっていないことが課題であります。近隣の方への声掛けや認知症と思われる方へのさりげない対応などについても、しっかりと内容を盛り込みながら養成講座を開催していく事が重要であると思われます。
- 認知症サポーター養成講座のステップアップ講座を開催し、認知症の人の引きこもりがちな生活を未然に防ぐ取り組みにつなげる「チームオレンジ」としての活動に繋げていけるよう、キャラバンメイトと協力しながら計画を立てていきます。
- 認知症の当事者やその家族の声を認知症施策に反映することや、当事者自身が自身のやりたいことを応援するといった視点が必要です。又周囲の方の理解も大きな力になると思われます。認知症になつても社会とつながりながら、住み慣れた場所で安心して生活を送れるようなまちづくりをめざしていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
40,277,524 円	市委託料収入	2016 年度

## 10. 介護予防サービス計画の作成（指定介護予防支援事業）

### （1）事業概要

要支援1、要支援2、事業対象者に認定された方々の自立支援をめざし、介護保険サービスや地域住民、ボランティアやインフォーマルサービスを組み込んだ計画を本人、家族、関係機関と調整しながら作成します。

### （2）実施内容・実績

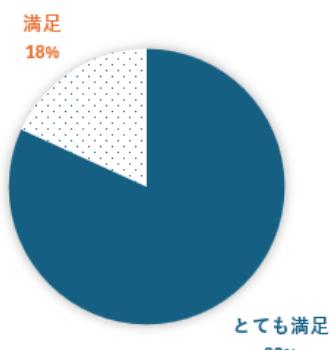
#### 【ケアプラン作成件数】

- 総ケアプラン数 合計4,558件  
(包括作成数 1,030件 委託数 3,528件)

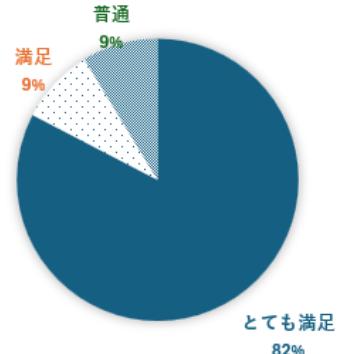
### （3）成果・評価

- 総ケアプラン数は増、包括作成数が減少し、委託数が増加となりました。
- 総ケアプラン数は、包括開設当初から右肩上がりで伸びてきています。令和6年8月より、地域包括支援センターを介さなくとも、居宅介護事業所が直接利用者と契約できるようになったにも関わらず（居宅介護事業所との直接契約者は件数には含めない）、昨年度よりも155件増えています。
- 担当利用者へのアンケート結果（回答者22名）  
包括で担当している利用者へのアンケートの結果、職員の対応に「とても満足」との答えが約80%ありました。

職員の受け答えは親切・丁寧ですか



困ったときにすぐに対応してくれたと感じますか



### （4）課題・今後の方針

- 社会全体が少子高齢化に伴う担い手不足に陥っており、ケアマネジャーが不足している影響で、すぐにサービス利用ができない介護難民の問題が発生しています。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
20,212,921円	介護保険事業収入	2016年度

## 1.1. 認知症啓発事業業務（市受託事業）

### （1）事業概要

令和6年度は新型コロナウィルスからの自粛モードから徐々に解放され、子どもから高齢者まで、誰もが参加出来る取り組みにも活気が復活し、多くの方の参加につながりました。世代を超えた交流の出来る居場所づくりをめざす事により、新たな認知症に対する理解の普及・啓発のため、屋外でできる活動を中心取り組み、認知症の方にもやさしいまちづくりをめざします。

### （2）実施内容・実績

#### 【認知症普及・啓発業務】

プログラム	実施回数	実績
認知症講演会	1回	テーマ「口腔機能と認知症」
認知症カフェ	63回	認知症当事者も一緒につくる居場所づくり
ほうかつ GARDEN	通年実施	認知症当事者やとその家族、地域住民による花壇づくり
認知症当事者を含む共生型活動	18回	卓球クラブ中田会、おにぎり会、釣りプロジェクト
啓発イベントの開催	2回	アルツハイマー月間に合わせ、図書館にて認知症の関連する本とともに、認知症関連の活動内容を掲示
認知症ケアパスの周知	随時	認知症ケアパス（認知症について段階別に支援内容を記載したパンフレット）を、必要な方へ配布
小学生対象に高齢者疑似体験の実施	2回	小学生を対象に、高齢者疑似体験、及び校区福祉委員と交流する機会を持つ事で、子どもと高齢者が交流できる機会づくり

### （3）成果・評価

- 認知症の方を含む参加者が自宅で閉じこもる事なく活動する事により、役割を持った日常生活を送る事が出来ました。
- 小学生を対象とした高齢者疑似体験は、年齢を重ねる事による日常生活の不自由さを子ども達に体感してもらう事で、より高齢者の気持ちになって考えるきっかけになりました。
- 包括ガーデンの活動は、認知症当事者及びその家族に穏やかに過ごせる時間を持つことにつながりました。自宅で閉じこもりになりがちな当事者にとっては、屋外での活動で役割を持ってもらうことで、当事者にとっても家族にとっても居心地の良い居場所となりました。

### （4）課題・今後の方針

- 地域に住む住民と一緒に取り組む視点を継続し、認知症当事者の居場所づくりを進めていきます。
- 認知症カフェだけでなく、まちなかサロン・カフェにも、認知症当事者・ご家族が気軽に参加できるような体制作りをめざし、認知症の理解・普及・啓発を行っていきます。
- 子供のころから認知症の正しい理解を促すため、キッズ認サポを阪南市全域の小学校を対象に順次開催していく予定です。
- 当事者や家族、地域住民への新しい認知症感の普及が必要と思われます。「認知症とともに生きていく」といった新しい感覚を若い世代から持つて頂けるような活動が求められています。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
71,000円	認知症啓発事業業務委託収入	2018年度

## 12. コミュニティソーシャルワーカー (CSW) 配置促進事業 (市受託事業)

### (1) 事業概要

地域における子どもの貧困や不登校の問題、ひきこもりなどに伴う社会的孤立や複数の福祉課題を抱える要援護者世帯を地域全体で支える地域福祉のセーフティネットづくりを進めます。関係機関や団体が参画する地域福祉ネットワークの構築をすすめ、地域の社会資源や住民団体等とも連携し、CSW 事業が有効に機能するよう取り組みます。

### (2) 実施内容・実績

#### ○総合相談支援体制の構築

内容	件数	実績
総合相談(件数)	1,110 件	「制度の狭間にある方」への伴走型相談支援、住民等と協働した身近な困りごとキャッチ、各種サービスの利用申請等
総合相談(実人数)	304 名	
相談の連携先	782 件	(一部抜粋) 家族: 93 件、民生委員: 73 件、市: 201 件 教育機関: 19 件、その他ケアマネ等 292 件
ほっこり相談	67 回	サロンへの出張相談、住民と協働した身近な困りごとキャッチ

#### ○地域福祉ネットワークの構築と連携

- ・校区(地区)福祉委員、民生委員児童委員、地域福祉活動団体、福祉関係機関や地域住民、行政等とのネットワーク体制の構築。SSW と CSW の連携、子ども福祉委員の運営支援。

プログラム	回数	実績
ひきこもり・地域の居場所づくり支援 草の根ネットワークの会議	2 回	ひきこもり支援について行政・相談機関や関心のある方と協議
当事者・家族の会への参加	1 回	まんまの会(阪南市ひきこもり家族交流会)へ参加、CSW の啓発
児童分野に関する地域での居場所づくり	4 回	地域の子ども食堂・居場所へ参加

#### ○社会参加・居場所づくり推進事業

- ・まちなかサロン・カフェをはじめとする地域への居場所への参加促進

プログラム	回数	実績
共生型サロン「きらきら」の運営支援	12 回	誰もが参加できる居場所として共生型サロンを毎月開催
ボッチャの定期開催「ボッチャ楽しも会」、出張開催	13 回	ボッチャを地域交流館体育館にて定期開催、地域のカフェ・サロンや団体への出張開催
漁福連携、農福連携への参加	4 回	釣りプロジェクトやおにぎり会、ふくし農園の活動に参加

#### ○災害時要援護者支援推進事業(くらしの安心ダイヤル事業)への協力

新規申請数	41 件	校区(地区)福祉委員・民生児童委員との連携した要援護者の見守り、
相談対応件数	98 件	発見、相談等の協働支援、更新作業

#### ○各種任意事業への協力

- ・緊急通報装置設置事業の訪問調査及び申請等の代行: 新規申請数 11 件
- ・ふれあい収集事業の調査協力

## ○地域福祉計画策定及び推進事業

- ・地域福祉計画の策定や地域共生社会実現のための会議等への参加・協力

## ○重層的支援体制整備事業

- ・支援会議への出席
- ・各関係機関と関係を構築し、複合的な問題を抱えている世帯へのアプローチ

## ○東西包括、各関係機関との連携強化

プログラム	回数	実績
CSW 連絡会	12回	市役所担当課、関係機関、東西包括 CSW の連絡会を毎月開催
泉州ブロック CSW 連絡会研修	1回	和泉市以南の市町の CSW 担当者と情報交換、研修を実施
意見交換(まつのき園、社協権利擁護グループ、保健センター、社協生活支援グループ)	3回	各相談機関の役割、困りごとを共有、意見交換を実施

### (3) 成果・評価

- 個別相談は、ひきこもりや不登校に関する相談が家族やケアマネジャー、地域から増えており、相談窓口として以前よりも認知されてきていると実感しています。
- 共生型の居場所づくりとして進めてきたニュースポーツ：ボッチャを活用した居場所への関心が高まっており、社会参加を求める方や福祉関係事業所、関係団体の参加が増加しています。また、地域からの出張依頼も増えています。
- ほっこり相談では、相談を目当てに普段来られない方が来てくれることもあり、身近な相談窓口として定着していると感じます。
- くらしの安心ダイヤル事業では、地域と協働でチラシを作成し、制度の啓発や更新作業を実施したこと、校区福祉活動の啓発にもつながりました。
- 各関係機関との意見交換を実施することにより、お互いの抱えている課題や連携における注意点などが明確になりつつあります。

### (4) 課題・今後の方針

- 地域共生型の居場所づくり（きらきら、ボッチャ楽しも会）では、移送の問題もあり参加が難しい場合があるため、身近な圏域内における居場所の必要性を感じています。きらきらでは、参加者が減少しています。現在の参加者の居場所としての機能を維持し、ひきこもり当事者など居場所を必要とする方へつながるように各関係機関、専門職を通じ、周知啓発に努めています。
- 潜在化している困りごとを掘り起こすために、地域や関係機関と連携が必要です。世代を問わず相談ができる専門職としての周知を広報等も活用し、継続していきます。
- 各相談機関と実施した意見交換から見えてきた課題をもとに、各相談機関が役割を明確にし、相談・支援の対応ができるよう重層的なネットワークづくりを進めていきます。
- くらしの安心ダイヤル事業ではランクに応じた見守り方法や更新の取り組みについて、地域によっては統一されておらず担当民生委員の裁量によるところがあるため、地域や対象者に応じた方法について体制を整えていく必要があります。
- 児童分野における関係機関との連携において、CSW としてのできる支援内容を明確にすることで、より相談しやすい体制づくりに努めます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
9,586,969円	市委託料収入	2020年度

### 1 3. その他の会議・研修等

#### ① 地域包括ケアに関連する会議

【会議名：阪南市介護保険・地域密着型サービス・地域包括支援センター運営協議会】 計 4回

日 時	名 称 (主催／場所)	参加者
令和 6 年 5 月～2 月	阪南市介護保険・地域密着型サービス・地域包括支援センター運営協議会 (阪南市／阪南市)	熊抱、大塚

【会議名：阪南市地域包括支援センター連絡会議】 計 12回

日 時	名 称 (主催／場所)	参加者
令和 6 年 4 月～3 月	阪南市・地域包括支援センター連絡会 (阪南市／阪南市)	熊抱、大塚

【会議名：3 市 3 町地域包括支援センター情報交換会】 計 1回

日 時	名 称 (主催／場所)	参加者
令和 6 年 2 月	3 市 3 町地域包括支援センター連絡会 (3 市 3 町地域包括支援センター連絡会／泉佐野市立社会福祉センター)	大塚、寺井

【会議名：阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター職員会議】 計 12回

日 時	名 称 (主催／場所)	参加者
令和 6 年 4 月～3 月	阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター職員会議 (西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内)	職員複数名

【会議名：校区福祉委員会委員長事務長会議】 計 5回

日 時	名 称 (主催／場所)	参加者
令和 6 年 5 月～3 月	校区福祉委員会校区長事務長会議 (阪南市社会福祉協議会／地域交流館)	熊抱、大塚

【会議名：難病患者支援ネットワーク会議】 計 1回

日 時	名 称 (主催／場所)	参加者
令和 6 年 10 月 24 日	難病患者支援ネットワーク会議 (大阪府泉佐野保健所／泉佐野保健所)	大塚

【会議名：泉州がん診療連携（ネットワーク会議）協議会】 計1回

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和7年1月30日	泉州がん診療連携（ネットワーク会議）協議会（泉州がん診療連携（ネットワーク会議）協議会緩和ケア部会／岸和田市民病院）	大塚

【会議名：泉州南圏域医療・介護連携推進会議】 計1回

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和7年2月15日	泉州南圏域医療・介護連携推進会議（泉州南圏域医療・介護連携推進会議／りんくう教育研修棟）	大塚

② その他、関連する研修等

【資質向上、新任研修会等】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和6年6月20日	認知症講演会（阪南市/防災コミュニティセンター）	大塚、寺井
令和6年11月19日	近畿ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会 大阪セミナー（近畿ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会／大阪国際交流センター）	大塚
令和6年12月7日	高齢化社会を共に生きる（日本生命財団/オンライン）	関
令和7年2月1日	ひきこもり・地域の居場所づくり講座（尾崎公民館/尾崎公民館）	吉川

【地域包括ケアに関する研修等】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和6年4月20日	大阪府介護支援専門員研修（大阪府介護支援専門員協会 泉州南支部/サラダホール）	寺井
令和6年9月18日	阪南市自立支援型ケアマネジメント検討会研修会（阪南市／阪南市会議室）	寺井
令和6年11月16日	大阪府介護支援専門員研修（大阪府介護支援専門員協会泉州南支部／防災コミュニティセンター）	寺井

【医師会・在宅医療関系研修会】

日 時	名 称 (主催／場所)	参加者
令和 6 年 8 月 10 日	3 市 3 町医療・介護多職種連携研修会 (泉佐野泉南医師会・3 市 3 町行政／りんくう研修棟)	渡辺
令和 7 年 2 月 13 日	大阪府在宅医療総合支援事業 在宅医療・介護推進に係る多職種研修会 (大阪府医師会／オンライン)	渡辺
令和 7 年 2 月 15 日	3 市 3 町医療・介護多職種連携研修会 (泉佐野泉南医師会・3 市 3 町行政／りんくう研修棟)	大塚

【認知症関系研修会】

日 時	名 称 (主催／場所)	参加者
令和 6 年 8 月 26～27 日	令和 6 年度 認知症地域支援推進員現任研修 (認知症介護研究・研修東京センター／オンライン)	西崎
令和 6 年 10 月 16 日	令和 6 年度 認知症地域支援推進員連絡会	西崎
令和 6 年 11 月 15 日	チームオレンジユーディネーター研修 (大阪府福祉部/大阪赤十字会館)	西崎
令和 6 年 11 月 26 日	令和 6 年度【公共事業所向け】認知症への理解増進セミナー (大阪府福祉部/大阪赤十字会館)	西崎
令和 7 年 2 月 4 日	認知症初期集中支援チームフォローアップ研修 (大阪府／オンライン)	西崎、関、大塚
令和 7 年 2 月 8 日	認知症サミット (泉佐野泉南医師会／スタートゲイトホテル関西エアポート)	大塚、西崎
令和 7 年 2 月 26 日	大阪府認知症キャラバンメイト養成研修 (大阪府/ホテルアヴィーナ大阪)	関
令和 7 年 3 月 3 日	令和 6 年度 認知症地域支援推進員フォローアップ研修 (大阪府福祉部/大阪赤十字会館)	西崎

【人権、権利擁護、虐待関係研修会】

日 時	名 称 (主催／場所)	参加者
令和 6 年 9 月 27 日	阪南市在宅支援専門職向け高齢者虐待対応研修	大塚、寺井、茂野
令和 6 年 7 月 23 日	人権ヒューマンライツセミナー (阪南市／サラダホール)	濱中
令和 6 年 8 月 9 日	人権ヒューマンライツセミナー (阪南市／サラダホール)	渡辺
令和 6 年 8 月 23 日	人権ヒューマンライツセミナー (阪南市／サラダホール)	吉川
令和 7 年 3 月 17 日	介護支援専門員資質向上（法定外）研修（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／サラダホール）	寺井、茂野、関

【講師協力、視察研修、実習受け入れ等】

日 時	名 称 (主催／場所)	対応
令和 6 年 6 月 15 日	日本地域福祉学会第 38 回大会（日本福祉学会／文京学院大学本郷キャンパス）	熊抱
令和 7 年 2 月 25 日	九州管区行政評価局・福岡県飯塚市から視察「箱の浦医療福祉連携協議会について」（箱の浦まちづくり協議会/箱の浦サロン）	大塚・船津
令和 7 年 2 月 27 日	明星大学人文学部福祉実勢学科 山井 理恵氏視察 「認知症の方の社会参加について」（西鳥取・下荘地域包括支援センター/西鳥取・下荘地域包括支援センター）	大塚、西崎
令和 6 年 8 月～11 月	泉佐野泉南医師会看護専門学校 1・3 年生実習（泉佐野泉南医師会看護専門学校／泉佐野泉南医師会看護専門学校・西鳥取・下荘地域包括支援センター）	大塚